

県内経済の動き

概況

〔2021年11月～2022年1月の動き〕

オミクロン株と資源高、原材料不足等による需給両面への影響を注視

鉱工業生産指数（11月）は2カ月ぶりに前年同月上昇、通関輸出額（12月 細島港）は3カ月ぶりに前年同月比増加した。百貨店・スーパー販売額（12月 全店ベース）は3カ月連続で前年同月比増加、「軽」を含む乗用車の販売台数（1月）は5カ月連続で前年同月比減少した。新設住宅着工戸数（12月）は3カ月ぶりに前年同月比減少し、公共工事（1月 保証対象請負総額）は2カ月ぶりに前年同月比増加した。有効求人倍率（12月）は前月比+0.02ポイント上昇の1.35倍で、1月の企業倒産は前月比横ばいの1件、負債額は同1億85百万円減の80百万円となった。

県内でもオミクロン株の感染が急拡大し、行動自粛による経済への影響が懸念される。資源高や原材料不足による供給減少や値上がり等も気がかりである。